

## 多摩市は、東京26市で初めて燃料電池ごみ収集車の試験運用を実施します

令和5年5月から多摩市は、東京都及び学校法人早稲田大学との連携により、多摩市内において、燃料電池ごみ収集車の試験運用を実施します。

これは、東京都が募集をした「水素社会実現に向けた燃料電池ごみ収集車運用事業」の実施自治体に本市が選出されたことによるものです。

### 1. 本試験運用の目的

多摩市は、令和2年6月に多摩市気候非常事態宣言を表明し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目標としています。市内に、大型車両に充填可能な水素ステーションがあること及び比較的勾配が多い本市の地形を活かし、早稲田大学が開発した車両を実際のごみ収集に使用することにより、燃料電池ごみ収集車の早期実装化や、水素社会の実現、地球温暖化の抑制に貢献します。

走行時にCO<sub>2</sub>を一切排出せず、水のみを排出することや静音性等について、燃料電池ごみ収集車が近くを走行している際にはご注意ください。

### 2. 試験運用実施期間等

試験運用は令和5年5月～7月、令和5年10月～12月の最大6か月間を予定しており、次の多摩市内のごみ収集ルートで使用します。

- ・月曜日・木曜日（可燃ごみ）：聖ヶ丘2丁目、聖ヶ丘3丁目の一部
- ・火曜日・金曜日（可燃ごみ）：落合3丁目
- ・第1第3水曜日（小型家電・金属類）：豊ヶ丘3～6丁目
- ・第2第4水曜日（小型家電・金属類）：愛宕1～4丁目、  
乞田、貝取、一ノ宮、和田の一部

また、本日令和5年3月27日から31日まで、上記ルート内でごみ収集を伴わないテスト走行を実施しています。

### 3. 参考

#### (1) 東京都の目的

東京都は、水素社会の実現を目指すとともに、温室効果ガス削減に寄与するため、都市の特性に適した燃料電池ごみ収集車の早期実装化に向けて取り組んでいます。

本事業は、CO<sub>2</sub>削減、静音性の向上、ごみ収集時の作業環境改善等に貢献する燃料電池ごみ収集車の早期実装化を目的とするもので、これにより業務用車両における水素利用の促進、廃棄物収集運搬車両のゼロエミッション化を目指すものです。

昨年度、同様の試験運用を行った港区とは地域特性の異なる多摩地域において、燃料電池ごみ収集車（1台）が、ごみ収集ルートを実際に走行・ごみ収集を行います。

試験運用においては、比較的勾配の多い多摩地域での導入効果や、新たに搭載する国産燃料電池モジュールの運用上の意義・効果などを検証します。今回得られる結果と区部での結果をあわせて整理し、導入効果の検証や、都内普及に向けた課題整理等を行います。

#### (2) 燃料電池ごみ収集車について

燃料電池ごみ収集車は、水素と空気中の酸素を化学反応させて電気をつくり、その電気を動力源に走行する電動ごみ収集車です。

走行距離が長く、動力としても多くのエネルギーを必要とする業務用車両における水素利用は、運輸部門の脱炭素化や水素利用の拡大のために非常に重要となります。

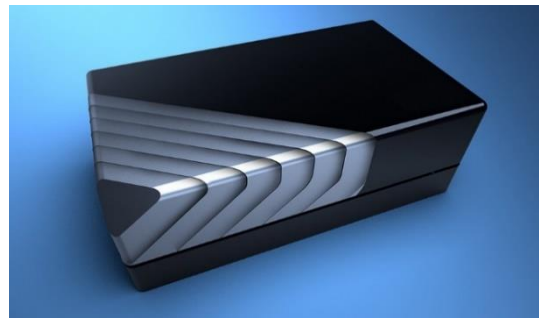
また、燃料電池ごみ収集車は、走行時にCO<sub>2</sub>を一切排出せず、走行及び作業時も静かなことから、ごみ収集時の作業環境や生活環境の向上にも貢献します。低速かつ頻繁な発停車を繰り返すごみ収集ルートにおいては、特に導入効果が期待できます。



写真：燃料電池ごみ収集車（試験運用車両）

## 今回試験運用する車両諸元

1	車両サイズ	全長：7,085 mm 全幅：2,190 mm 全高：2,560 mm
2	航続距離	70~80 km
3	ごみ積載量	1,700 kg
4	ごみ積載容積	7.8 m <sup>3</sup>
5	水素搭載重量	4.2 kg
6	水素充填時間	3~5分



写真：燃料電池モジュール（横型（Type II））

©トヨタ自動車株式会社

問い合わせ

環境部ごみ対策課

電話 042-338-6836（直通）

Fax 042-356-3919